

あむかす 旅のメモシリーズ

カラコルム・トレッキング

((ギルギットから 桃源境 フンガへ))

地域 : インド → パキスタン
(カラコルム地方トレッキング)

→ アフガニスタン

期間 : 1974. 7. 8. 9 月

旅人 : 木村 一雄
(東北大学 アドヴァンチャー クラブ員)

同行 竹口 甲三 内藤 厚樹
(弘前大山岳部) (弘前大山岳部)

制作 : あむかす TEL (03) 255-7111 (EX) 275

〒100 千代田区神田松永町 19-2
東京近鉄ビル 日本観光文化研究所

〒983
筆着住所 仙台市旭ヶ丘 3-19-26

☎ 0222-71-8047

1°

序

旅の方針は 準備段階 → 有為自然。

実施段階 → 無為自然に。今後のシルクロード探険の予備調査として まづ現地に行って 直接体験をすゝ事にした。

ポイント は インド 及び パキスタン で生活している人の 生活感覚、価値観、はどうであるかを かまえずに 気軽な気持ちで見ようという事だった。

2°

全行程



◦ ユーラシア大陸 東半分ひとまわり

◦ 1974. 7/14 ~ 9/20 (2ヶ月と1週間)

◦ 総経費 約 30 万円

3°

インド

7/19 11^h30 バンコク発 → 13^h40 ダッカ着. 14^h30 ダッカ発

16^h30 ニューデリー着. 17^h05^m やと 空港の検査通過.

19^h00 ~ テリー市内をさまよう. 19^h30 YMCAにおちつく。(つた).

* 機内で COLLATION (軽食) が2度も出. 酒もおかわりなどして

しまい テリー空港では 酔い + あの蒸し下口の暑さでフラフラ. インド

のビザは東京で取得. 陸路出国なので絶対必要. ビザを取る時

、往復の航空券 おいは US\$800 のチェックが必要.

⑤ 空港 (Delhi) の銀行で 10 のみ千エッジ. レートは US\$ 1

= 7.60 Rs. (ルピー). ヤミはもっといいはず. チェンジの証明書だけ

は手に入れておく必要がある.

7/20 0900 起. 1120 EMBASSY OF JAPAN. 「大学発行の英文

身分証明書 & IDカード」の証明書を作ってもらう. (結果的には

一度も使用せず.) 「TO WHOM IT MAY CONCERN」 という書類

で. 3枚作って. 手数料 15.Rs. 17^h00 YMCA → AMAR COLON

Y の紹介された家を訪ねる. わざす家の人は不在だったか.

私が行く事は連絡してあり、その人の宗教仲間の家に世話にな
 る事となった。以後5日、イボ人の家で寝起して、付近の主に
 ヒズーの寺院をうろつく。“イボ人の家庭の中に入れてみる”が実現
 できた。以下 ニューデリーの 雑多な情報 です。

① 100ルピー = 1 Rs. = 0.14 ¥ = 円42 (但し物価の関係で日本の
 ↑公定
 円200 (その価値はある。) ヤミ。YMCAでのRATE。US\$1 = 7.7 Rs.

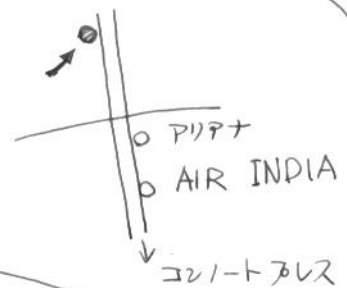
② 連絡 JAPAN INFORMATION CENTER

日本の新聞あり。 add. | 10-Kasturba, Gandhi Marg |
 手紙をスタッフしてくれり。 | New Delhi. TEL 44646. |

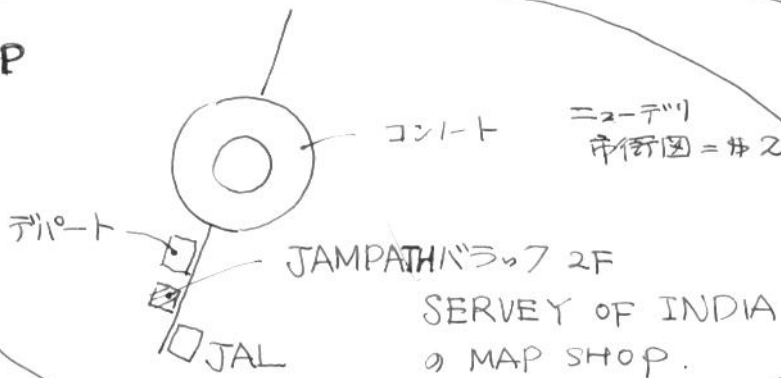
月・火・木・金 (0930 ~ 1300) open.
 (1430 ~ 1700)

水・土 (0930 ~ 1300) "

土曜フィルムショー (1830 ~) "



MAP

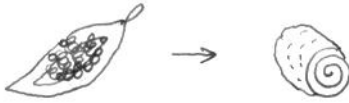




PARANTHA = ポロター

材料 : 小麦粉, いも, 玉ねぎ

* パン (Betal leaf) = 30 円付.



葉っぱの中に何やら詰め込んで丸め、砂糖をまぶす。これを食後、口にくみ。モアモアやる。あくが強くものすごい味がある。



水 = 10 =

貴重品。客に一杯の水をたすのが、もてなしなのだ。

ONION 0.5 ~ 1.0 RS./kg.

COFFEE 1 RS.

マトリハバ-ガー 0.9 RS.

} コーヒー コーヒーハウスにて.



スクーター 80 円付 / km



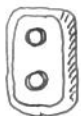
タクシー 1.60 RS./km

(但し いずれもメーターが故障なんて時もあるし、値上げになったとかで料金改定表をだしてふっかけり事もある。)



傘 (ポンペイ製) = 30 ~ 40 RS. カメラ = 7000 RS. 車 (唯一の

国産アムバサダー) = 60000 RS. ~ . ヲジオ (大玉の 1000 RS. トリビタ 3000 RS.)



コンセント (220V)



スイッチ (下げると ON.)

音楽

ミタール = 500 RS. 。 横笛 = 10~50 RS. たいこ (バブ) (バーンスリー) = 200 RS.

* 7/25. ラーマヤタ 上演の練習を見学。 4組の男女が農村 (クルカヒナ・カマリ) のたねまきから 取り入れまでの情景を踊る。 バックの音楽が何とも素晴らしい。 特にミタールの不共和音とあのJAZZにも似たたいこのリズムには心酔していった。 ぜひ 生演奏を聞く事をおすすめする。

教育

18才のカレッジ (テリ- UNIV. 教養学部) 在学の女子の課目。

- ◎ サンスクリッド
- ◎ HOME SCIENCE (for GIRLS)
- ◎ テレビ
- ◎ 英語
- ◎ 数学
- ◎ 政治学
- ◎ 経済学
- ◎ 厂史
- ◎ 音楽
- ◎ NEEDLE WORK (針仕事?)

(ミツコカレッジ-IV は 250 RS/month も高いので high クラス 107-リッフ ")

の人向かいと通えない。

* 宗教については述べられないので省略。 但し、宗教を除いてはイデオロギ- を語れないし 麻薬的 魅力を持っているのは事実。

7/25

21:15 柳ドテリ- 駅から ジャンタ 急行 にて アリコッパ-

へ向う。 2等の寝台に乗る。 広軌なので 車内は広い。 2等なので (指定席)

治安はいいが、それでも心配なので 荷物のひもを手にくくりつけておく。

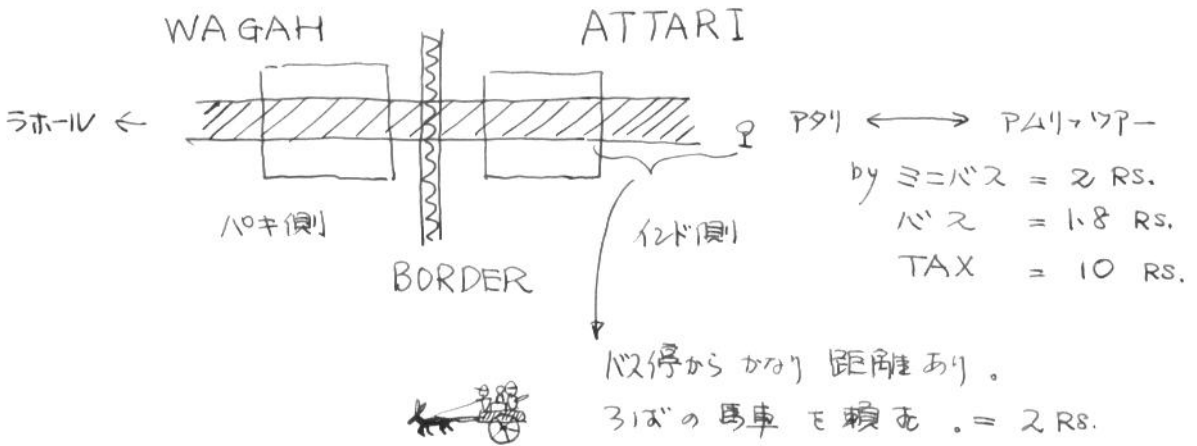
726 (7/26) PMリッツアー → 国境 → ラホール

11^h40 JANDIALA St. 着。バスにて国境(アタリ)へ。

16 30 やっと国境通過。

17 10 ラホールへ。くたぐたぐでラホールのクリフトレホテルに
とまる。

印.パ° 国境



◎ 国境の係官は、

仕事かのかのりい上、公然とどげの下を要求してくる。特に日本人はハイハイとやてしまうらしく、我々にも、ハンはないかとか言ってくるし、借りたボールペンは返さない。こつこのはくせにならして他の日本人にも迷惑がかかると思つてはつきり"返却せよ"と言つてしびしび返した。

自己主張の文化圏に居るのだから、こちらもウジウジしないで

勇気を持って自己主張すべきである。

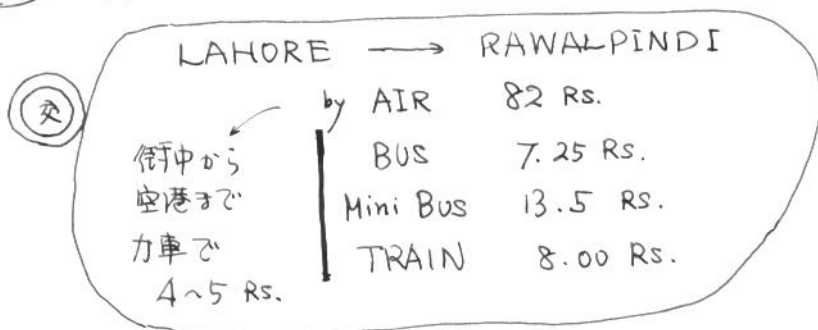
4° パキスタン

{ RS ⇄ ¥ 33

○ ラホールの フリフトン ホテル泊 (エンガム = 15 Rs. タクシ = 22 Rs.)
CLIFTON [McLEOD ROAD,]

回教文化園に入った事が感じられる, まず街中にひびくコーランの唄。

7/27 0930 ミニバスにてラホール発。 → 1500 ラワルピンジ着。



ラワルピンジで、先に来ていた内藤氏と再会した。このあと数日は

日本のカラコルム登山隊が基地として利用する Mrs. Davies. Private

add.
-te HOTEL (59-BANK ROAD RAWALPINDI CANTT) に泊り。入山の準備に

追われた。テラビズホテルはマスターが親切な上、カラコルムへの

日本からの入山者はほとんど顔もだすので最新の情報が手に入る。

たべほうだいの食卓(三食)とお祭の時間がある。普通の料金

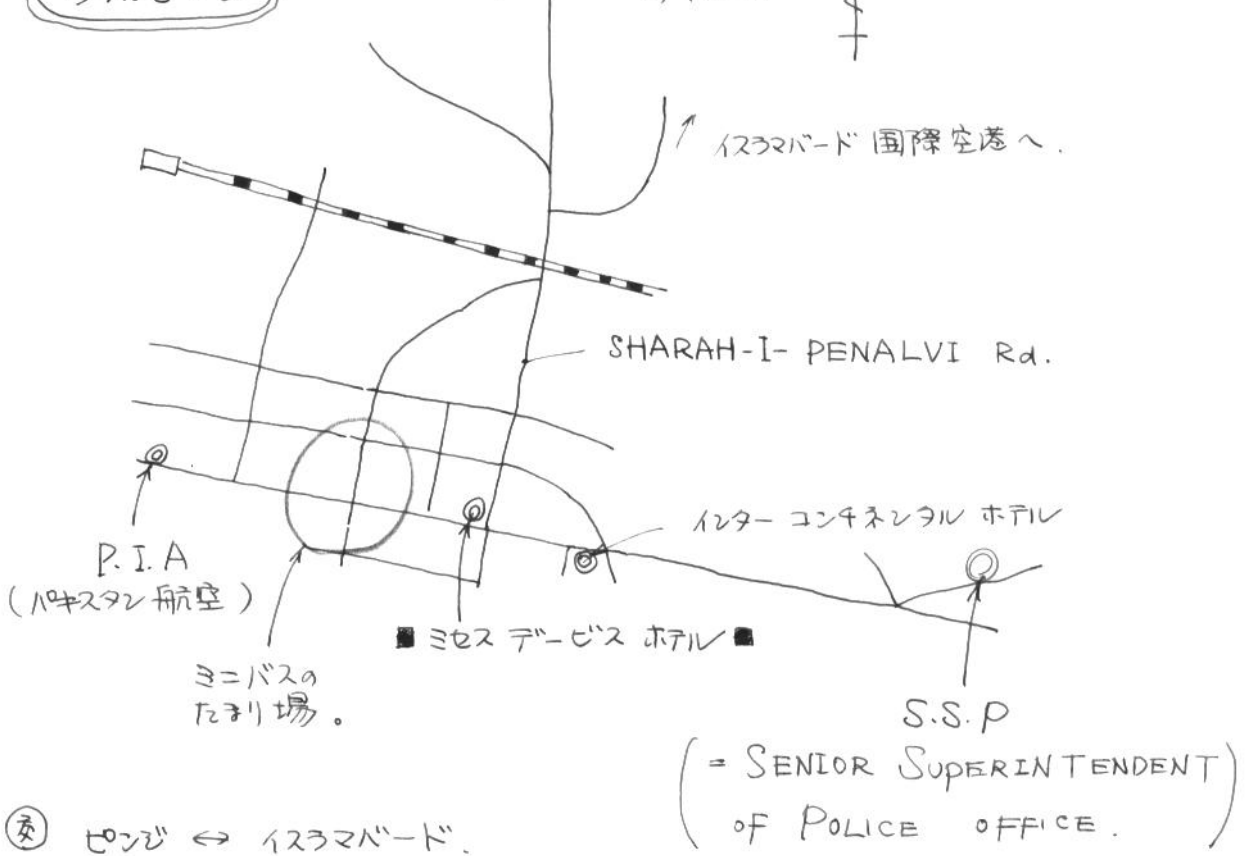
@ 45 Rs./泊を我々は特に学割を強固に頼み込み、他の客には

内緒という事で 30 Rs で泊る。広々とした部屋にゆったりとした

ベット。暑い事を除けば王様のくらし。

ラウルペーネ

↑ イスマバードへ
約 10km



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

② 番のミニバスで 30分。1 RS.

イスマバードは建設中の首都。平原に整然と区画が切られている。

日本大使館は外務省の向いにある。一流のインターコンチ

ネンタルホテルへは涼みに行くが良い。(何れ日中は暑いのだ。)

ついでに一階にある KOHSAAR レストラン (11h ~ 15h) に入ると良い。

ダイニング料理が 1人 20 RS. である。民族料理から西洋料理まで

デラックス。

ピロジの物の価

チーズ (カン入り)	12.5 RS.
バター (")	7.5 "
アメ	7.5 "
コーヒー (カン入り)	6. "
お茶	4.24 "
コンデンスミルク	4.5 "
チキン スープ	4. "
トイレットペーパー	3. " ~ 6 RS.
はちみつ	8.25 "
英国産 ビスケット	9.00 "
ヌーニード	19.5 "
ラホール市街図	4.5 "
イスラムボード "	0.75 "
ナイフ	3.5 "
カギ (中共製)	3 "

インターコチの
売店で
純銀 (96%) ?
の指輪 2つで
45 RS.
ジャズ シルバー
のスパール
5 RS.



• マジックリング •
4つの輪の組み
あわせの指輪に
なる。6つもあり。

◎ ピロジは 沙塵性のための 寒暖の差が激しい。日中のあの暑さ、
ちっと近くの銀行へ行っただけでぐったりしてしまう。特に腹をこわして
いたためか 熱病にかかったおりに (本全体が) だるく ベットのよこうだっ
ていた。買出しの時、ユニバーサルカレッジ という看板を見つけたのを
何の気ないに入った。受付がいて、自己紹介をしたら、校長さんとかい
おっさんや 教授が出てきて、早口の英語で ジャンジャレ やられるの
は良かった。日本の学生の程度が知れても すごいと思ひ。一応、表面

は了解しているようにして 内心はヒヤヒヤもなだた。 ほうほうの
こいで逃げだした。 L.L. の授業の おほど 神経が疲れる。 胃が痛
くならた。

GILGIT へ行くには、

カラコルムの基地、ギルギットへまず行かぬ

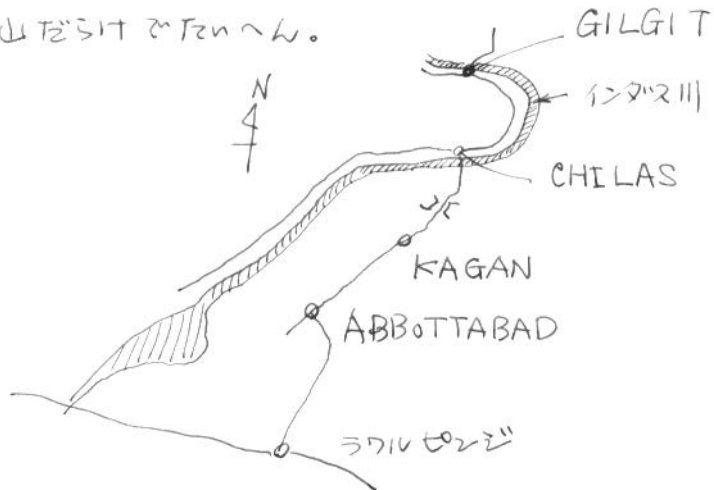
ば事は始まらない。 所が こいつが けっこう やっかいなのだ。

1° P.I.A. (パキスタン航空) 国内線で飛ぶ。 これがいちばんらく。
但し、ギルギット空港が 悪天候だったりして 仲々 飛はななし
予約を取るのも 困難。 空港に 数回 通う 覚悟がいる。
とにかく 航空券を手に入れ @ 65 RS.

2° カカル経由の陸路。 悪路であり びくたのみ。
[KAGAN] フェア燃料 (2500 ~ 1500 RS.)
1日。

3° インドスバリーロード。 トンジからバスで ミナオラまで (8RS.)
[INDUS VALLEY ROAD] [MINAORA]
あとは トラックに便乗。 但し 道は 土日しか open しないとか。

4° 千トリル経由。 山だらけでたへん。



7/30 1200 飛行機が飛ぶかもとの話であつたので空港へ。
 1500~1600 待つ。
 1700 結局、飛行中止。ぐったりしてホテルに帰る。

P.I.Aに根性で交渉。明朝飛ぶかも知れんという。


7/31 0230 P.I.Aへ。 0300 BUSで空港へ。

0500 TAKE OFF!! うれしく、うれしく。窓外には
 カラコルムの連山が朝日も受けて輝いている。0620 キルギッ
 ト着。0800 P.I.Aのマイクロバスにて INDUS HOTELに着く。

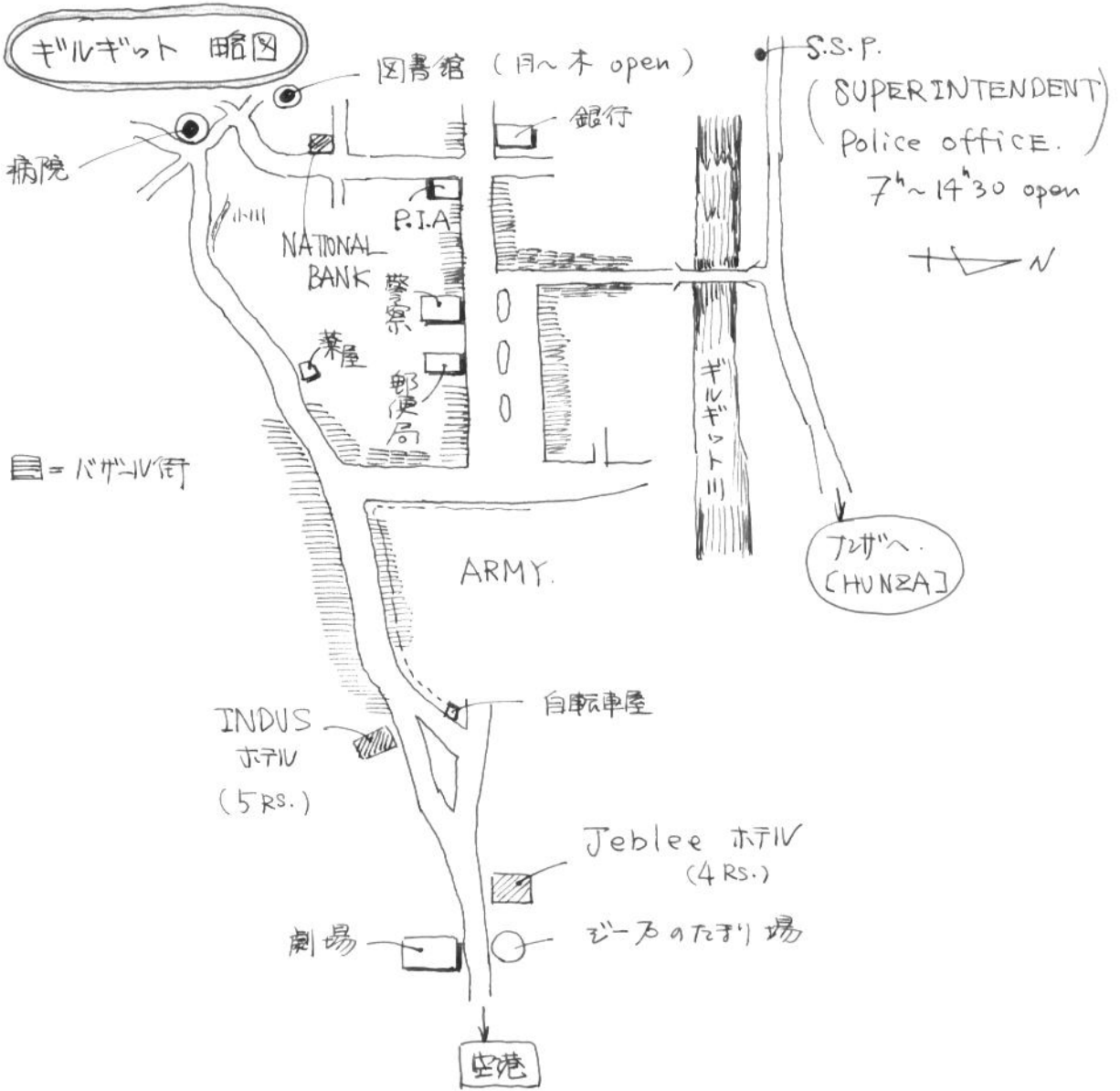
④ キルギットはカラコルムのまただ中にある街だ。まわりを茶色
 (GILGIT)
 の地膚を見せた急斜面の山々でとり囲まれている。我々の声口へう
 機はそんな山膚スルスリにたつてキルギット空港へ降りてゆく。着陸!
 高原の空気がすがすがしい。[1600M] ついにまただ。

7/31~8/3 GILGITで保養と EXPEDITIONの準備。

物価

ブレンド スカッシュ	7 Rs.
Root AFZA	8 "
グルコース	1.5 "
米 (1ポンド)	1.5 "
カレー  ひとつ	6 "
ホテル 宿泊 3人部屋	15 RS/day

チャイ (茶)
 (ポット = 40杯)
 10ル
 (2人分) = 1 RS.

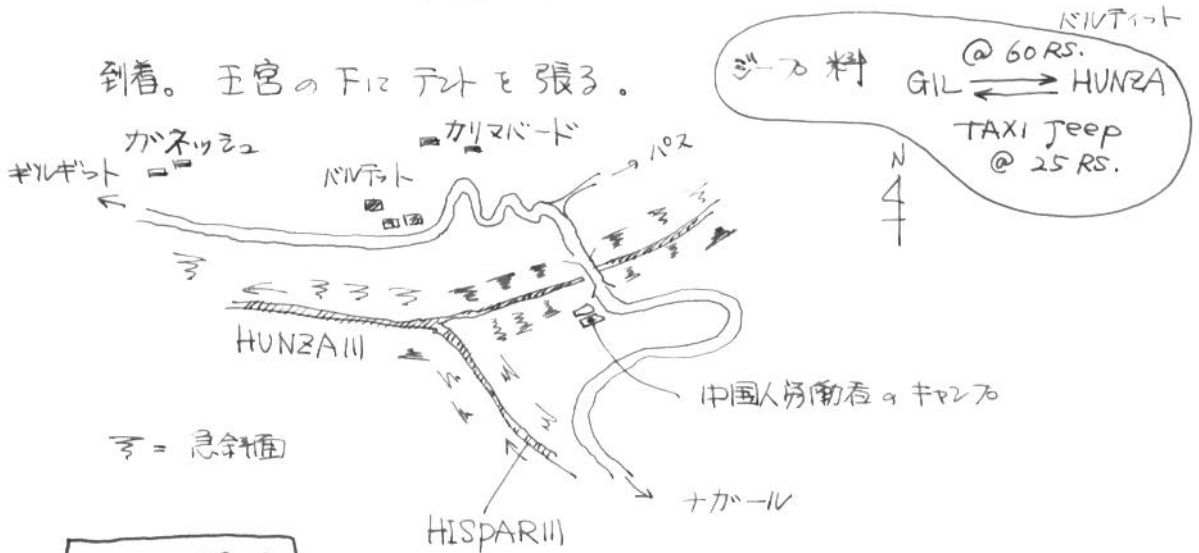


⑧

内藤氏の肝炎が悪化。病院に入院する事になり、山へは私と竹口氏が入る事にする。私の下痢もクローキを飲んでやっと治った。細菌性だったのかと思う。ヒンズで一宿だった 広島三朗氏とジプで Tzagh に向う事にした。

⑧ 0930 GILGIT 発。 EXPEDITION いままだ。
 1130 山くずれがあり 道がふさがっている。 中国人労働者が直す
 のを見学。 筆談をしてみたら うまいこと通じた。 信じられないような道
 を。 10数人と山用具を満載したジープは 乗りきってゆく。 一つ運転を
 まらえば 谷底、という道なのだ。 18^h40 やつと HUNZA の BALTIT に

到着。 王宮の F に テントを張る。



フンザ

⑨ 1030 ~ 1130 フンザの王様 = ミール と会見。

1640 裏山 (バルティット側) に のぼる。 ラカポシ. ティラン (7788M) (7273M) がみえる。

広島氏が ミール と会見するの に 同行した。 彼は 丘の上の 豪華な家 に 住んでいる。 ホララの 並み木道 を通り、 あんずが 枝の 1/3 ほど になっ
 ている 木々の 間の 坂を 登ると ミールの 家の 内に きた。 絨毯を敷

きつめたゴージャスな部屋に案内される。ミール自身はもう、老令であり、実権は弟が持つようだった。会見のあと ミールと一箱に写真を撮り、「2年後ぐらいに探検隊がまたきます。」と言い握手して別れた。この後の情報では 74.9/24. フンガ王国はパキスタンに併合になり ミール = ジュマル・カーンは引退したという。かつてのシルクロードの要地であったフンガが、最近のパキスタン親中国政策により、中国 ↔ パキ を結ぶ唯一の陸路としてその軍事上の重要性を増したためと思われる。道路の建設はフンガまでを中国が、フンガ以南をパキが担当だったものらしいが、パキがのんびりやるためかフンガ以南かなりのところまで中共の労働者が労働に従事していた。平日は工事の為、道路は通れず、土・日（休み）のみ通行が許される。ジーンズで中共のキャンプを通ると、一律に青い人民服を着た、皆若い中国人労働者が思い思いに休んでいる。日中友好のためと思ひ「你好！」
Nǐ hǎo!
と手をあげると 顔が似ている 親近感を持つのか、手を振って答えてくれた。筆談ができる事といい 更にユーラシア大陸のどまんちかにいるという実感がわいてくる。（但しあとで聞いた話によると 広島氏らは中国人の写真を撮ってフィルムを没収されたという。そして 8月末、パキスタン

はフンガ地区への旅行者の入域を禁止していった。そのため、やってくるジープの台数が極端に少なく、我々も帰りのジープに乗るため2日間も待つはめとなった。日本人としては我々は74年最後の入域者だ(と思う。)フンガは海拔約2400M. フンガ川に沿って細長く伸びており人口は約2万4千人。宗教は回教。言語はフルニヤスキ語。不老長寿の桃源境と知られている。かつてのアレキサンダーの遠征時の子孫とがいう話がある。パキスタン人(いわゆる)と違った精悍な顔立ちをしている。シルクロードを通る隊商をおよぼした盗匪の子孫なのかも知れない。若い女性もたまにだが見る事ができる。ベールの影の彫の深い顔立ち。中近東の沙漠を乗り越えて血が地中海につながっているような気がする。長寿について詳しく調べた余話はないが、ついに高原の澄んだ空気の中で回教を信じてのんびり暮らしたり、又、季節的救済も適当にある事、2つ目に、ほとんど肉食をせず豊富にとれる果物を多量に食べている事が秘訣になっていると思われる。訪れた8月は、ちょうどアズドのまさかりで、枝に鈴なりになった熟した果は、ちよと風が強いとポタポタと落ちる。

とても生では食べられないので、村人達は 家々の屋根に干して、干し
 プズにして 食べる。くり抜いた種も 乾かして、割っての仁を食べる。
 実にこれが おいしく、登山中の おやつがわりにもなった。道々、搗いたべ(?)
 いた プズの種を ポケットなどに 入れておく。テトなどの 帰ったら、そいつを
 石で 割って、中実を食べる 状である。村の子供達の つめは 来る オレンジ
 が かけていた。オレンジ色の プズも 食べて 腐った のであろうか。
 急斜面を たくみに 利用し、水も ひいてきて 作ってある 畑では、主食の小麦
 をはじめ、あわ、じゃがいも、かぼちゃ を 作っているのを見た。



こんな 帽子も かぶっている。 12 ~ 22 RS. (¥360 ~ ¥660)
 鼻あじは 通っている。

チャパティ 教室

(チャパティを ロキスタシでは ローティ-と呼ぶ。
 テルコスキ-語では チャビキ だ。)



小麦粉に 水のみで
よく ねる。



手に 粉を つけて
ひとかたまりと
なって 丸める。

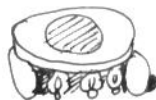


薄く のばす。



ハタハタと
両手の 向
を 往復させ
直径 25cm
ぐらいにする

石の上 あるいは
鉄板の 両面
で 焼く。(油は使わない。)



ブルシャスキー 語教室

主に ナガール村 の隣の トウクルカイ の ポーター から 収集。

数

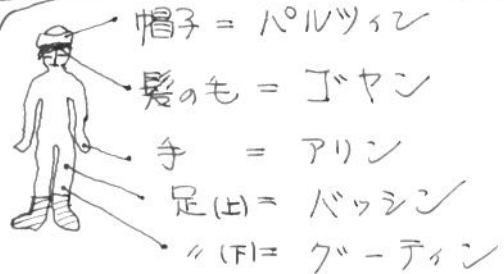
- 1 ハン = ヒキ
- 2 アウト
- 3 イスキ
- 4 ワルディ
- 5 ツンディ
- 6 ミシンディ
- 7 タレ
- 8 アルタンビ
- 9 コンディ
- 10 トークミ
- 11 トラルマヒキ
- 12 " ルト
- 13 " イスキ
- 14 " ワルキ (ワルディ)
- 15 " ツィンディ
- ...
- 20 プィタル
- 100 タ

名詞

- 石 = ダン
- 岩 = ドン
- トゲの草 = チャレ
- 草 = シカ
- 砂 = ティフ
- 鉄砲 = ラーハル
- のびね = ジャシマムツ
- 道 = ガン
- 川 = ツィル
- 山 = チーシェ
- 空 = アスマーン
- 雪山 = タランチ
チーシェ
- 氷河 = キャバル
ガム
- ケルン = シカリ
- ほえ = ペン
- 蝶 = ピラン
- 時計 = ガリー

動作

- 出発 = グサルチャン
(サツチャン)
- STOP = フーチャン
(休む)
- ぬる = クシャイシヤン
- 疲れた = ミワルメン



- 舌 = グームス
- 歯 = グメー
- くちびる = グイリン
- ひげ = フギー



31バ" = トリヤン



牛 = ボツ



ヤギ" = ボ"ショ-ショー



めす = ティギ"ヤン

おす = ビ-ロー

卵 = ウォラッ"シユ

・食品

りんご = セ-フ

マンゴ" = マシユパ"ティ

小麦粉 = ドアロン

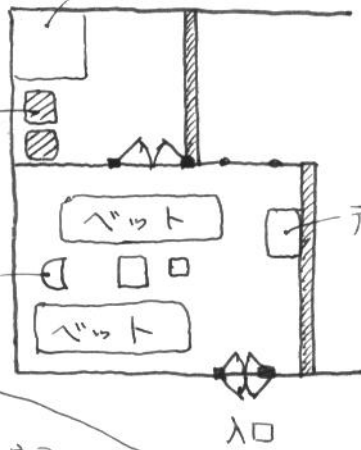
あんず" = クマニー

ナガール村
NAGAR

洗い場 (?)

便器
×2
(木製)

いす



1日 @ 5 Rs.

めし夕 5 Rs.

朝 2 Rs.

く"30.

テーブル

入口

旧ナガール王 (ミ"V)
の家

ナガール" レストラン

郵便局

ボ"アラ"並み木

旧馬場

坂道 (広場に
なっている)



フンガ
へ

警察



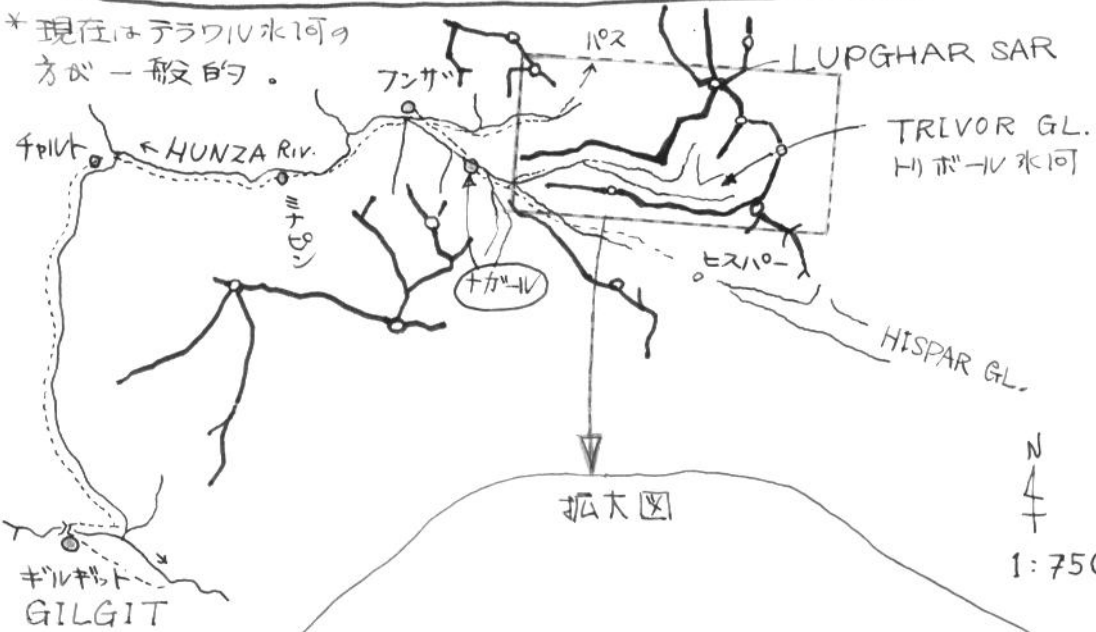
トウクルカ"オ"ト

5°

トリボル氷河* (= ガルーサ氷河) 溯行報告

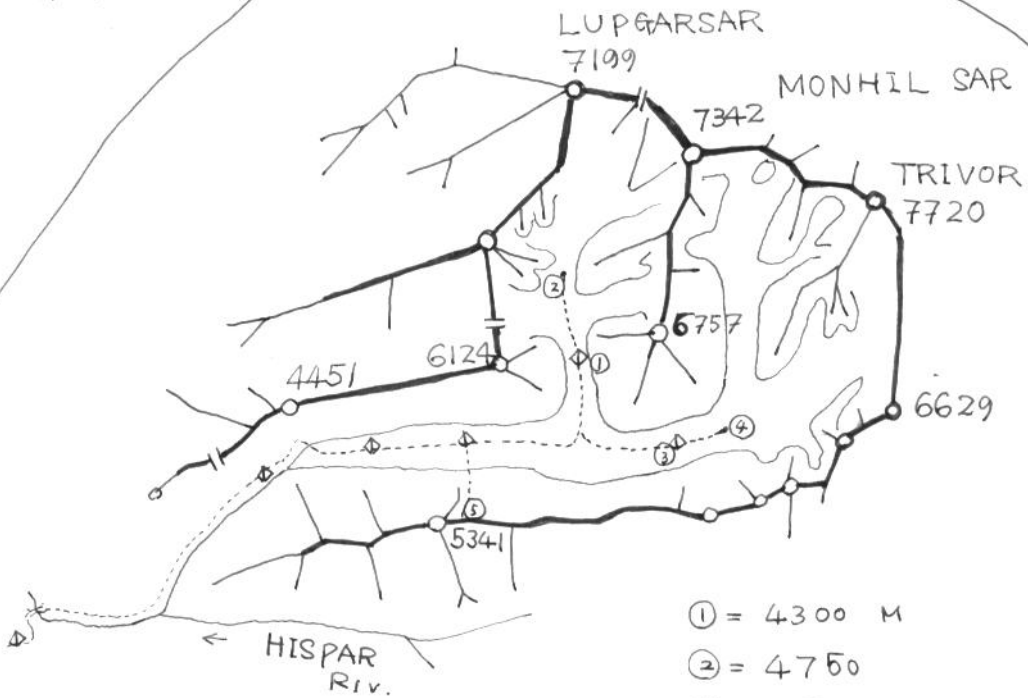
TRIVOR GL. = GHARASA . GL.

* 現在はテラワリ氷河の
方が一般的。



拡大図

N
↑
↓
1:750000



◇ = キャンプ地奥

- ① = 4300 M
- ② = 4750
- ③ = 4600
- ④ = 4750
- ⑤ = 5020

⑧/6 0530 起

0930 HUNZA BALTIT 発

1120 REST

1430 NARAR 着。

村の真中にテトを133。
↓

⑧/7 0615 起。

0800 ポーターやヒワズ"2人
を出発。荷重し。

トウケルカイ村

1110 HISPARI川にかかり橋。
昼食。

1300 行き止まりとなる。橋が
こわれている。

1400 撤退

1530 トウケルカイ村 ↓

⑧/8 0530 起

0645 ポーターを2人やヒワズ
を出発。@30RS./1日

0830 HISPARI川に沿った
急斜面の道。15分毎
にREST。

1010 昼食。

1600 ものすごいガレ場。
↓

⑧/9 0500 起
0630 発

1430 氷河上テト場着。

1530 ポーターを返す。

金を払う時 少しトラブルがある。

1600 夕食。 ↓

⑧/10 0600 起

0900 テトに出発

1330 氷河のふたまたまが見える

巨岩の下にテト。

ひま返し 昨日の所へ。 ↓

⑧/11

0700 テトあげ"出発。

1200 広島氏のテトの横
に今日は泊る事にする。

1330 テト発

1630 氷河のふたまたま着。

雪面があらわれ、氷と
氷河らしくなった。

4000Mを越えた。

1900 テト場に帰着。 ↓

⑧/12 0610 起

0810 発

1040 テト地奥へ。

1200 昼食。

1400 ①地奥着。テトの荷も
一気にあげたのでくたした。
↓

⑧/13 二人とも腹をこわし 停滞。

9hごろ 広島さんらも帰路に

滞った。彼らは下山後パズ
の方に行ってみるといふ。

8/14 雪のため停滞。手紙書く。

8/15 霧が濃いから軽身で偵察に出る。②地味 4750M
ルナカール南面は絶壁でアタックは無理と判断。

8/16 0600 起
0900 出発。ひき返して氷河主流に行く。
1430 ③地味着。
テントを張る。

8/17 未明。素晴らしい星空。
銀河がはっきり見える。

0900 発。軽身で遠足。
1245 ④地味 4750M。
モニヒルカール見える。
帰路、2度滑り落ちた。
ITがはたし。
高度には慣れたのか頭痛はしなくなった。

8/18 0700 起。
0915 発。下山。
1515 ⑤地味下、テニ場に着く。

8/19 0530 起。

0700 発。軽装でガレーサ峰へ。

1200 5020 Mのピーク到達。
ガレーサは2つ鞍部を越えて向こうと巴々する。
時間と体力を考えあきらめる。
全同写真を2度写す。
双眼鏡で遠くの山々を確かめる。

1515 帰着。◇

8/20 0815 下山南端。
1255 ニ泊目に帰りの分として置いた食料をとりだす。

1700 河原のテニ場着。はいてる。

8/21 0600 起
0815 発
1620 トウクルカイ村着。◇
くたぐた。アズマの味はぐっとくる。

8/22 0630 起。
午前中は、休養。

1330 出発。村では脱穀をやっている。

1600 NAGAR 着。
レストハウスに泊る。
(P19 参照)

8/23 0700 起
 0730 朝食。この日は
 3週間ぶりに下着を
 換え、洗たく。
 のんびりと疲れをとる。

8/24 0530 起。
 0730 病院前に2ジープ
 待ち。---
 --- 7時向待つ。
 1700 待ちきれず歩いて
 出発。

途中でジープにひきわ
 れる。
 2000 HUNZA 着。

CHEAP HOTEL 泊。
 夕食のガソリン(油)をた
 くさん使ったオムレツが
 まいて 2人とも下痢。
 畑の一角にある便所に
 走る。

8/25 0530 起。
 0630 ジープ待ち。---
 --- 8時向待つ。
 気分狂いそう。

1430 ちゃんと乗れる。
 1500 TAXI ジープに乗り
 かえる。
 1700 パンク。スペアを

積んでいない。この場でパンク修
 理。(20分)

往きの道路は封鎖されたらしく
 この時は対岸のむと酷い道を通
 る。必死で荷重にしがみつく。

2100 びろ。フラフラになりギルギ
 ヲに着いた。

8/26 ギルギットで事後処理。
 内藤氏と再会。元気になっていた。
 S.P. に行って滞在していた
 旨の証明書もらう。

8/27 0435 起。ねむなし。

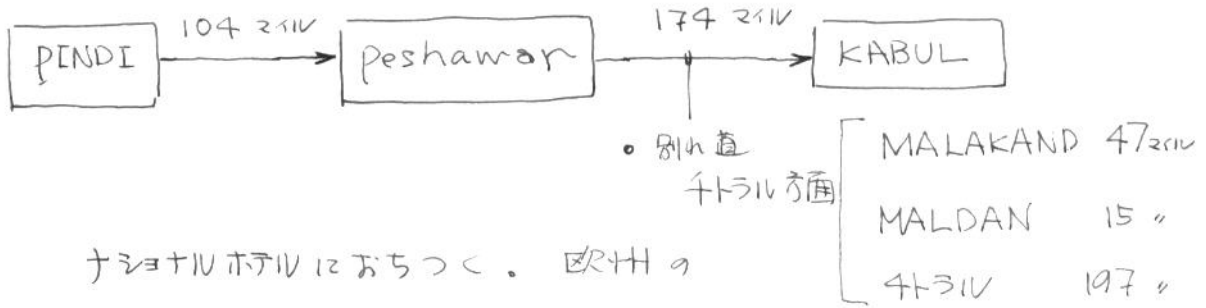
0500 P.I.Aのバスを空港へ。
 0710 ギルギット空港 離陸。
 0900 ラリルセンジ。デ-ビス
 ホテル 到着。

このあと 後始末を4日
 ラリルセンジにいます。下界
 に降りたら又。腹をこわして
 しまった。ワライ使用。

6° ラワルペンジ から カバー峠へ。

8/30 ラワルペンジのミニバス乗り場にて、パシャワール行きに乗車。
(1400)

4時間でパシャワール着。(1800)



ナショナルホテルにおちつく。欧州の

ヒッポー達がたくさん泊っている安ホテルだ。トイレやシャワー室は衛生的ではないがこちらも慣れてきたので余り気にはならない。

8/31 バスステーションでカブール行きのチケットを買う。(25 RS.)

明朝のチケットを買えた。パシャワール博物館に行く。(0.25RS)

ここはタキエーラ等がそばなので仏像に隣り言えば日本の国宝級のものがズバリと揃っている。ぜひ立寄ると良い。

このあとチャイニーズレストラン"ホンコン"で食事。ここに限らず

都市にはチャイニーズレストランが一軒はあり。大体において中華

料理の味を保っている。我々にとってありがたい存在。ラーメン

とか食べたくなったら来る。一人 14RS. ぐらいだった。

"ホンコン" レストランの1つ車の通りは サタ"バサ"ーIV という。みやじ" SADDAR
用に カップ や ホタバゴの 器具を買う。 夜、街をうろついていたら
カバナー を 発見した。 肉を鉄のくしにさし、炭火で燃らして売ってい
る 例のやつだ。 感服して 食べた。 ヨーグルト風の "ラッシー" とい
うのもうまい。 氷で冷やして甘いのももの。 コップを 持って行って ホテル
の 部屋に持ち帰った。

⑨ 0700 10247-IV 発。 有史に名高い カイバー の 峠を 越える。
我々の 乗っている パキスタンバスは 指定席であるが、ローカルのバスには
屋根にまで人が 乗っている。 更に 乗用車に 十数人 乗っているものもあつた。
うしろのトランクを 開けて そこにも 乗っている 訳だ。 よくぞ スケリヅ" が
こわれない。 09^h 国境着。 パキスタン側は 申告だけで すぐ 通過。
パキスタンバスのためか アフガニスタン側の 荷物検査は やけに ぎび(かた)。
1)2^h の ほご下まで 伺へた。 現金、カメラ、ラジオ 等の 貴重品の 申告
を せらねる。 16^h KABUL 到着。 ひとまず シェーバー ホテルにお
ちつく。 国境での BANKレート。

{ | US\$ = 52 AF. |
| RS. = 4.8 AF. | }

7° AFGHANISTAN

KABUL

カーブは 1800 M の高原であり比較的涼しく、又、

街の北西部に位置する チキンストリート を中心とした 旅行者街は
〔 CHICKEN St. 〕

適当に ウェストナイズ され、快適。クーデター後、共和制となり取

りしかりが 嚴重になったとの事だが、我々が 旅行者の、ヒーローの

オアシスとしての 役割を果している。場所柄、インドからの 組と、ヨ-

ロッパ 帰りの 連中が 合流するのが カーブであり、お互いに 今後の為、

情報 交替を する 訳だ。1 ヶ月以上いる なんてのは けうだ。安ホテルなら

10~20 AF / 1 日 だし。20~30 AF. あれば"ステーキを 食えるから 生活費は

おどろくほど かわらない。X モデルズ No2. 伊藤 幸司 氏の「アフガニスタン」が

役に 立った。以下 カーブ ガイド を 示す。

◎ THE NATIONAL MUSEUM OF KABUL

見応えが ありすぎる 博物館。市の 南部に 位置する。中心部から

タクシーで 30 AF. ぐらい。バスもある。バスは 中央に しゃりの 鎖が

あって 前部に 女、後部に 男が 乗る ように なっている。カーブは 都

会なので、進歩的な 女性 は ベール を かぶって いない。

博物館の開館時間。 }

10/23 ~ 3/20	9h ~ 12h, 13h30 ~ 15h30.
他	8h ~ 12h 13h30 ~ 16h30

入場料 6AF.
 中々くりみて 2時間
 ぐらいかかる。

火曜、金曜は休み。

◎ 比較的安くていいホテル。 = GHAZNAVY HOTEL

[add. Jade Tamur Shahi KABUL.]

[Tel. 23585]

1日 20 AFS. ぐらい。 マネージャーが親切。

◎ 映画 YAMAH HOTEL の隣の映画に行ってみた。 1日1回。夕方から始める。 入場料 15 AFS. 何の英雄の映画だった。言葉はわからないが、動作を見れば大体推測がつくし、何となくも音楽と時折入る唄がすばらしい。



◎ 食料品物価.

正油 (キッコ-22)	50 Afs / 100cc
札幌一番	30 Afs.
パン	2~4 "
卵 1コ	2.5 "
生ジュース	6 "
コーラ	8 "
カバブ (10本)	13 "
アッパルパイ	10 "
アイスクリーム	10 "

ステーキハウス (レストラン)
のメニュー (チンズナ)

SHISH KABAB	20 Afs.
KERIEE	" "
ROAST LAMB	30 "
" BEEF	25 "

good

Albiroony レストラン
(チンズナ)

BEEF STEAK	30
LAMB chops	"
ROAST LAMB	"
FRIED CHICKEN	45
SPAGHETTI	20
HAMBURGER	10
COFFEE	7
TEA	5

◎ 交通

市内 ←→ 空港
タクシー
が 50Afs. ~

● バ-ミアン ~ ①
[BAMYAN]

国内線 = BAKHTAR AFGAN AIRLINES を使う.

US\$ 13 (ドルで払うと安い) 35分ほど.

② バス. 70 Afs. (時間かかる.)

● BAMYAN ↔ BAND-I-AMIR. ロイヤルトラックの荷台に乗り.
3時間半ぐらい.

1人約 50 Afs. 砂かけありをもちもちとあがって砂漠の中を走る.

バ-ミアン という バンデクアミール湖は やはり 一見の価値はあると思う.

8° 最後に。

まだまだ書きたい事は ありのだが 疲れてしまったので
 ここいらで 一区切りをつけます。最後に 書き忘れた事を 2.3。
 フラガニスタンの ビザは インドにて 取得。厳格な予定でもない限り
 ビザはその 1ヶ月前の 国で取るぐらいで いいと思う。カーブルから私
 は タシケント、ハバロフスク 経由で 帰国したけど、その手続きは、カ
 ブルの イェツリストへ 行って、5日ぐらいで 手配した。ソ連は イェツリ
 ストが決める パック 旅行以外は タクメなようで、切符から ホテルまで 全
 部、世話つきた。せいぜい 自由時間に 街を ぶらぶらだけ。カーブル
 から 横浜まで 全部 あわせて US\$ 400 ぐらいだった。

② 旅の情報は 時々刻々 変るものである。そしてまた、
 余りなんでも 知って 行くのは、確に 旅行に 終り 危険性がある。
 何が できてくるかわからん 所に 1つの スリルが あるのだし、例えは
 現地の人に 道を たずねて 親しく なって しまう 場合 だって ある。
 書いてみて 本当に 重要なのは、現地の どこへ 行けば、その時の
 情報が 手に入るか (情報を 得る 場所の 情報) くらいかな

と思った。
 スペースの関係で
 省て かわりに 以上
 した。実感の手記は 別の
 機会に 出したい と思います。

1975. 7. 3 記
 K. KIMURA